

2025.01.10 鶴石会長が建設工業新聞に年頭のあいさつを投稿しました

(3) 総合 2025年(令和7年)1月10日(金) 日刊 建設工業新聞

(第三種郵便物認可)

新春企画 県建設業関連団体長に訊く

テーマ
①新年所感
②各関係機関に対する
提言、要望



鳥取県コンクリート診断士会

会長 鶴石健治



新年あけまして
おめでとうございます。
ます。

当会は、資質向上、構造物管理者への技術支援、社会的地位の向上、社会貢献等を目的

として平成17年に設立し、今日まで研修会や現場見学会、出前講座、会員相互の技術交流に努めてきました。活動20年を記念して今秋には記念式典を開催する予定としています。

さて、我が国の多くの地域では、社会資本である橋梁、トンネル、道路などが著しく老朽化し、建設後50年以上経過している橋梁の割合は、2020年時点で約30%、30年時点では約55%、40年には約75%となる見込みとも言われています。一方で少子高齢化、人手不足の影響は、維持管理分野も例外ではなく、近年では、AI化やロボット化、DX化などの技術の大きな波も押し寄せ、新たな転換期に入ろうとしています。このような状況のもと、今後さらにコンクリート診断士に求められる役割は重要になるものと確信しております。

当会は、大学、建設コンサルタント、建設会社、メーカーなど、多様な分野の技術者が交流する数少ない技術屋集団です。このような人的資源を利活用し、一層の新技术の習得と技術の研鑽に努め、社会基盤としてのコンクリート構造物の診断を通じて社会の発展、安全に貢献すべく、今後も活動していく所存です。

本年も、何卒よろしくお願い申し上げます。